

## 種子処理加工： 世界のエキスパートを目指して



### 青沼 航

先端生命科学専攻 2014年3月博士課程修了  
現職：みかど協和株式会社

<http://mikadokyowa.com/>

先端生命科学専攻博士課程を学位取得とともに2014年3月に修了し、みかど協和という種苗会社に就職しました。在学中は種子植物の雌雄性に関する研究をしていました。研究材料だったナデシコ科のヒロハノマンテマという植物は日本では研究者が数人しかいないというニッチだったので、自分で研究材料を集めるため、柏キャンパス近くに圃場を借りて変異体探しに明け暮れていました。研究情報を集めるためには必然的に海外の文献を読み込むしかなく、論文を読んでいく中で国は違っても志を同じくする研究者が世界にはいることに気づき胸が熱くなりました。自分で何でもやらなければならなかったからこそ、手探りで研究していく楽しさがあり、海外に目を向ける重要性にも気づかせてくれた研究室生活でした。

アカデミックの道に残ることも考えていましたが、幼少の頃から好きだった農業に直接インパクトを与えることができ、世界を舞台にできるような仕事がしたいと思っていたので種苗関連の会社に入社しました。現在は野菜種子の処理加工に関する業務をしています。野菜の種という遺伝的な付加価値に目が行きやすいのですが、実際に農地にまかれた種がきちんと発芽するためには、種を研磨したり、農薬をコーティングしたりするなどの加工処理が必要です。発芽率の1%の違いや苗の健全性によって農家の作業性や収益に大きな違いが出るため、種子処理加工も種苗会社の重要な業務です。

入社してまだ2年目なので、仕事を覚えるのに精一杯な毎日ですが、大型機械の運用なども任せられ、少しずつ仕事が軌道に乗り始めています。昨年の冬にはアメリカのエキスパー



世界各国から集まった種子処理加工のエキスパートたちと

トミーティングに参加する機会があり、工場見学で何千トンも積み上げられた種子を目の当たりにして、日本とのスケールの違いに驚かされました。また、海外の担当者は学位を持っている方でも、図面を机上で引くだけでなく、オイルにまみれながら真っ黒になって種子処理機械を作り上げてしまうようなワイルドさがあり、自分の手で夢を具現化していく姿勢を見習いたいと思いました。私も「種苗」という業界で、世界に通用する技術を発信できるような仕事がしたいと思っています。